

令和5年4月10日受付

第 号

相互提案型協働事業実施報告書

令和5年3月31日

(宛先) 座間市長

団体 住所 座間市小松原 2-44-1-808

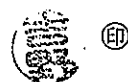
名称 アートステージ

代表者名 小山 透



市 担当課名 教育部 生涯学習課

所属長 吉野 芳絵



次のとおり報告します。

1 事業名	支援が必要な人たちへのアートコミュニケーション事業
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	令和3年度選考 (令和4年度実施)
4 報告期間	令和4年 4月 1日 から 令和5年 3月31日 まで
5 事業費	507,221円 (うち座間市支出分 500,000円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	心身に何らかしらのハンデのある人、不登校や引きこもりでコミュニケーションが苦手な人など、支援が必要な人たちを対象に、アートを通して個性を発揮し自信を持って社会参加できるように、今までにない出前レクリエーション講座とざまユニバーサルアート展を開催した。 出前レクリエーション講座は、市内福祉事業所や小学校特別支援学級等に出かけ、専門分野に特化したアーティストによる、今までにない創作を楽しむアート体験の機会を提供した。 ざまユニバーサルアート展は、支援が必要な人の作品をアート作品として評価する座間市では初めてのアート公募展を実施。専門家の審査員による審査会、市長や教育長出席の表彰式、選抜作品による巡回展、団体のホームページに展示会の様子を掲載し、座間市公式YouTubeに作品紹介や展示会の様子の動画を掲載するなど、多くの市民の方に見てもらう交流の機会を提供した。
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	支援が必要な人たちへのアートコミュニケーション事業
-----	---------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	<p>所期の目的は、十分達成できましたか。</p> <p>十分達成できた。</p>	<p>出前講座は8団体、アート展は45件の参加があり、それぞれの参加者（団体）の意見も好意的なものが多かったことから、事業実施初年度としての目的は十分達成できた。</p>
事業成果・効果	<p>事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。</p> <p>出前レクリエーション講座は目標5回に対して8回実施。参加者も100人を超え、今までにないアート内容と創造性を発揮できる講座内容が各地で高い評価を得た。</p> <p>ざまユニバーサルアート展は45点の応募があり、共同作品もあり参加者は90名を超えた。作品にスポットライトを当てた展示会と表彰式をハーモニーホール座間で実施。5日間で280名の来場者があり、その後市役所市民サロンコーナーで3日間巡回展を実施し300名の方が来場され、多くの市民の方から賞賛の言葉を頂戴した。</p> <p>参加された方のご家族、事業所や学校の職員の方からも、日常の生活では得られない貴重な機会を得たと高く評価された。</p>	<p>「何かしらのハンデがある人（障がい児者や不登校児など）」を対象とした事業は当課では初めてだったが、出前講座に参加した学校や就労支援事業所からは、「今後も継続して行って欲しい」との意見があった。また、今回参加しなかった団体からは、「次年度は必ず参加したい」との話もあり、大きな成果・効果を感じるとともに、本事業の需要の高さを感じた。</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
----	-----------	----------

目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	担当者とは十分な協議を行い、目的や目標について共通の認識を持つ事ができました。	対面での打合せや電話やメール等での調整を頻繁に行い、常に、事業目的や課題を共有しながら事業を進めることができた。

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	進捗状況については適時報告し情報交換を行った。必要に応じてスケジュールや実施方法を変更し、当初予定していた以上の事業内容を中止することなく実施することができた。	互いの進捗状況の報告をメールや電話で頻繁に行い、必要に応じて、対面での打ち合わせを行った。突発的な課題が生じたこともあったが、スケジュール等を調整し、課題を解決しながら事業を進めることができた。 当初計画したオンライン紹介動画の制作作業が遅れ、年度内に動画を公開できなかった。

対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	担当者とはお互い目的意識も分かち合えたので、対等な立場で協議することができた。	事業を遂行する上で、団体から様々な要望を受けることがあったが、対等な立場であることを意識しながら、互いに妥協することなく、かつ、納得ができるよう協議をし、事業を実施することができた。

相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	お互いの都合を汲み取りながら、アート講座の日程調整やアート作品の保管などを相談し合い、アート展の準備、実施も共同で取り組むことができた。	団体が通常行っていることでも、市の事業という観点から、団体の希望通りに行えない部分が生じたり、事務や手続きに時間がかかってしまうといったことはあった。しかし、団体に繰り返し説明をし、理解してもらうことにより、最終的には事業を実施できた。また、団体が本事業に抱く思いを市も十分に理解し、互いに補える関係が築けたと感じている。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

<p>役割分担の内容</p>	<p>役割分担の内容を具体的に記入してください。</p>	
	<p>(団体の役割)</p> <p>企画立案、全体日程作成、事業推進 出前アート体験講座の内容と講師調整、日程調整、実施 必要なチラシ、ポスター作成 アート展の応募要項/申込書の内容、作成 アート展審査会の実施、賞品の手配、設営準備、実施、表彰式の実施、搬出対応 巡回展の設営準備、実施 オンライン展示会の動画作成</p>	<p>(市の役割)</p> <p>本事業に係る申込受付 ・アート展への出展申込受付会場の手配（常設展示室） ・受付事務 アート展会場の手配 （ハーモニーホール座間ギャラリー、常設展示室） アートワークショップとアート展等の広報及びチラシ配布の協力 ・ワークショップやアート展予告チラシの庁内印刷 ・就労支援事業所等へのチラシ封入封緘及び発送 ・市内小中学校支援教室等への学校連絡便によるチラシ配布 ・ワークショップ開講案内として就労支援事業所や市内小中学校への説明目的の訪問に同行 ・市が管理する手段を活用して広報<手段> ①広報さま、②市ホームページ、③LINE公式アカウント、④庁内放送、⑤市内公共施設 <内容ごとに活用した手段> アート展作品募集①②③⑤ アート展開催①②③⑤ 巡回展の開始③④ ・イオンデジタルサイネージを活用してアト展開催を広報 ・事業実施後、校長会にて事業協力校にお礼伝達と全校にカレンダーポスター配付及びコミュニティセンターにカレンダーポスター配付 ワークショップの当日運営補助 ・開催会場への同行と補助 アート展出展作品の保管場所及び出展作品の返却会場の手配 (常設展示室) アート展審査会 ・審査会場の手配（ハーモニーホール座間ギャラリー） ・会場準備及び片付け ・記録写真撮影の補助 ・審査会得点の記録及び集計作業</p>

		<p>アート展の会場設営及び当日運営補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表彰式次第作成 ・表彰式会場レイアウト作成 ・賞状作成 ・表彰式の準備、開催通知作成と発送及び出席者の確認 ・受賞者へ受賞の旨の電話連絡 ・市長賞受賞者に受賞コメントや賞の希望を調査 <p>巡回展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場手配（市民サロン） ・巡回展出展作品の保管場所手配（常設展示室） ・会場設営及び片付け ・運営補助（昼休みの会場当番） <p>YouTube 市公式チャンネルへの掲載準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アート展出展作品動画の編集 ・YouTube への掲載手配
--	--	---

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適正だった。	団体のみでは難しい事柄を、主に市が担うことができたことから、広報協力について役割分担は適正なものであった。
実施結果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	果たすことができた。	<p>市公式LINEや広報ざままで、本事業を知ったという人もいたことから、市が市民への周知を担うという役割は、ある程度、果たすことができたと感じている。しかし、周知の準備に時間がかかってしまったこともあったため、次年度改善していきたい。</p> <p>当初計画していたワークショップやアート展の窓口、アート展の場所の確保及び広報やチラシ配布の協力のほか、ワークショップ当日運営補助やアート展審査会補助及び当日運営補助などにかかわったため、当初の想定よりもかなり多い事務量となった。</p>
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	

	<p>アート展実施において、単独では気が付かなかった点や緊急対応についてもサポートしてもらい、事業を迅速に滞りなく実施することができた。</p>	<p>団体では不可能と思われる規模での周知を当課が行い、団体が今までに実施してきた経験を踏まえて事業を進めることができたことから、単独で実施する以上の成果を上げることができたと考える。</p>
--	--	--

4 今後の具体的な展開

<p>事業の波及効果</p>	<p>今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。</p>	
	<p>(団体の考え) 協働事業以降も市の事業として予算化されて、実施についてはアートステージ、広報については市の方で分担し合い、双方の協力のもとにノウハウを発揮し合い、支援が必要な人のための継続的な文化事業として発展していくことを望みます。</p>	<p>(市の考え) 今年度は、初年度ということもあり、本事業について知らない人や団体も多くいた。次年度は、更に周知を徹底し、参加者数の増加、また、認知度の上昇を狙いたい。</p>